

感染関連腎症の臨床像と腎病理所見の経年的変化につ

いての検討

京都府立医科大学腎臓内科では、日本腎臓学会の「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに腎臓病総合データベース構築に関する研究」に参加しております。日本腎臓学会から提供を受けた登録データを使って、下記の臨床研究をあらたに実施しています。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

感染関連腎症は従来、若年者で溶連菌感染後に生じる急性糸球体腎炎が主流でしたが、衛生環境の向上や抗生物質の発展などに伴い減少傾向にあります。一方、高齢化や糖尿病の増加により、溶連菌以外の感染に関連した腎炎が増加しています。

わが国における感染関連腎症の頻度や臨床像について調査します。

研究の方法

・対象となる方について

2007年から2022年までの間に「わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに総合データベース構築に関する研究」に参加された方を研究の対象とします。なお、参加施設は日本腎臓学会のホームページに掲載されています。

・研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から2028年12月31日

・方法

上記データベースより以下の情報を取得し、感染関連腎症の割合や臨床像について調べます。

・研究に用いる試料・情報について

情報：年齢、性別、臨床診断、尿蛋白、尿潜血、血清クレアチニン 等

利用開始予定日：2023年12月7日

・個人情報の取り扱いについて

参加施設でデータベースに登録する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表は厳重に管理され、電子情報化されたものは、他の一切のコンピュータと切り離されパスワードで管理されたコンピュータに保存されます。データ管理については、日本腎臓学会腎疾患レジストリー腎病理診断標準化委員会により厳正に行われています。

本研究には日本腎臓学会から「施設名を消去した個別データ」が提供されるため、そのデータから患者さんの個人名を特定することはできません。また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都府立医科大学 腎臓内科学教室 玉垣 圭一）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

研究組織

研究責任者： 京都府立医科大学 腎臓内科学 玉垣 圭一

研究担当者： 京都府立医科大学 血液浄化部 小牧 和美

共同研究機関： 日本腎臓学会腎臓病レジストリー委員会 委員長 丸山 彰一

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2028年12月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学

職・氏名 腎臓内科・玉垣 圭一

電話：075-251-5511（平日9:00～17:00）